

# ドイツ人韓国語学習者の「-에」 と 「-를」 の 誤用に関する考察

朴 恩 珠

## A Study on the Errors in the Use of “-에” and “-를” by German Learners of the Korean Language

Eunjoo Park

### 抄 録

韓国語とドイツ語は統語的に異なるため、ドイツ語母語話者の韓国語学習者（以下、ドイツ人学習者とする）が韓国語を学習する過程において難点がいくつかあるがその中の一つが助詞の使用である。

本稿は外国語として韓国語を学習するドイツ人学習者の作文と発話に現れる助詞使用の誤用について考察した。

考察対象は場所を表す時に用いる助詞「-에 e」と「-를 leul」における誤用に限定し、分析資料としてドイツ人学習者の作文と会話事例を用いた。

分析の結果、「-를」の誤用は母語の負の言語転移であり、「-에」の誤用については日本語の負の言語転移から生じた誤用と考えられる。これらの誤用を生じさせる要因の一つは学習ストラテジーであり、学習者は韓国語学習のために母語や以前に学習した外国語を通して目標言語の習得における効率化を図ろうとしたものとみられる。

**キーワード：**言語転移、助詞「-에」と「-를」、異言語間影響、学習ストラテジー

(2018年9月25日受理)

### Abstract

The Korean language and the German language are syntactically different, so there are several aspects of the Korean language with which native German speakers who learn Korean (i.e., German learners of Korean, hereinafter referred to as “GLK”) have difficulty. One such challenge is the use of postpositional particles.

This paper is an analytical study on errors of GLK in the use of postpositional particles in their compositions and utterances.

The target of the study is limited to errors in the use of postpositional particles “-에” (pronounced as “e”) and “-를” (pronounced as “leul”) that are used to express places. GLK’s compositions and conversations are analyzed.

As a result of the analysis, it seems that errors in the use of “-를” are related to negative language transfer of the mother tongue and that errors in the use of “-에” are caused by the negative language transfer of the Japanese language, which they may have learned. In other words, errors in the use of these postpositional particles result from their learning strategies as the more efficient way to learn, in which the learners attempt to learn the target language based on their mother tongue and another foreign language that they have learned.

**Keywords:** language transfer, particles “-를” and “-에”, cross-linguistic influence, Learning Strategy

(Received September 25, 2018)

## 1. はじめに

本稿では外国語として韓国語を学習するドイツ語母語話者の韓国語学習者（以下、ドイツ人学習者とする）の作文と発話に現れる助詞使用の誤用について考察する。

韓国語とドイツ語は統語的に異なるため、ドイツ人学習者が韓国語を学習する過程において習得しにくいところがいくつかあるがその中の一つが助詞の使用である。韓国語は語根を中心に意味が加えられ、品詞を変える接辞、あるいは語尾が順番に付け加えられて単語になる添加語である (남기심 Nam Gishim·고영근 Ko Younggeun, 1985: 24)。その添加語の特徴を反映する文法形態が助詞と語尾であるので、韓国語学習者にとって助詞習得は避けては通れない必須項目である。しかし、このような添加語的な特徴が他言語話者の韓国語習得におけるハードルを高めている (이정희 Lee Jeonghee, 2002: 8)。

考察対象は、場所を表す時に用いる助詞「-에 e/に」と「-를 leul/を」<sup>(1)</sup>における誤用に限定し、分析資料としてドイツ人学習者の作文と発話事例を用いる。

本稿の目的はドイツ人学習者の作文と発話事例を通して、どのような場面で、なぜ、「-에」と「-를」の使い方にズレが生じるのか、その発生状況を辿って誤用の原因を見いだすことである。

## 2. 資料と分析方法

本稿で使われる発話と作文事例、アンケート資料はハンブルク韓国語学校のドイツ人学習者<sup>(2)</sup>を対象に、2013年8月から2014年の6月までの2学期にわたって収集したものである。資料収集に当たっては、基礎的な文法の知識と一定以上の語彙力を備えた学習期間1年以上の初心者ではない学習者で、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の韓国語能力が初級以上である学習者を対象にした。参加者数は30名で年齢は高校生以上である。

発話事例は4つのクラスを対象に授業時間中の自由な会話のやりとりを収録したものであり、作文事例は対象学習者の日記や作文など文章作成の課題を集めたものである。アンケート調査の内容は主に学習者の目標言語である韓国語の学習動機と目的を含めて学習方

法や期間、及び目標言語以外の外国語学習経験などである。

本研究の誤用判定の基準は次のようにした。慌てて言い間違える、書き間違える、というようなミスは偶発的なものに過ぎないので、学習者が類似する場面で同じ間違いを3回以上することはないと仮定し、一人の学習者が類似する場面に3回以上のミス（発話と作文を合わせて）を起こした場合を誤用とみなす。

分析資料は誤用に分けられたものの中からいくつかを取り上げ、次の順で分析を行う。

- 1) 誤用事例を作文と発話に分けて、どのような場面で誤用が発生するのか。
- 2) 1) の誤用の中に共通するパターンがあるのかどうかを観察する。
- 3) アンケート回答を通して学習者の学習方法や外国語学習の経験などを比較しながら、誤用との関連性があるのかどうかを検討する。

### 3. 先行研究

外国人の韓国語学習者の誤用研究の中で誤用データを体系的に分類したものと、조철현他 (Jo Cheolhyen, 2002) と이정희 (Lee Jeonghee, 2002) の研究を取り上げることができる。조철현他 (2002) と이정희 (2002) は、日本語、中国語、ロシア語、英語を母語とする韓国語学習者の誤用事例を文法形態素の使用様相、語彙、尊敬法、テンス、及び連体形の使用様相、表現の相違などについて言語学的な立場で分析している。

ドイツ人学習者に関する研究として、作文に現れる誤用について성상환 (Sung Sanghwan, 2006) の研究がある。성상환 (2006) はドイツ語と韓国語の統語的な相違に着目して、ドイツ人学習者の並列翻訳テキストにみられる誤用について論じている。特に、ドイツ人学習者の韓国語文法に関する誤用として、作文に現れる主語省略の過剰般化 (Overgeneralization) と語順の差異による助詞の誤用を取り上げている。発話に現れる誤用としては、이해욱 (Lee Hewook, 2014) の研究が取り上げられる。이해욱 (2014) はドイツ人学習者に絵のカードを見せながら、物語を語らせる実験を通して、韓国語のアスペクト表現を観察し、ドイツ人学習者における韓国語の進行形表現の誤りについて論じている。

学習者が添加語の特徴をもつ韓国語をより自然に表現するために助詞習得は重要であるが、先行研究におけるドイツ人学習者の助詞使用の誤用に関するものは数少なく、考察する余地がある。

### 4. 場所を表す「-에」と「-를」

韓国語の助詞「-에 e (に)」は主に場所を示す時に用いられる。しかし、主語の移動を伴って場所を表す場合において、常に「-에」を用いるわけではない。例えば、「-에」は主語が向かう所をゴールとして表す場合に用い、「-를 leul (を)」は主語が向かうとする大まかな方向を表す場合に用いられるのである。詳しくは4.1節の例文をみることにする。

#### 4. 1 場所を表す「-에」と「-를」の使い方

下記の【事例1】の韓国語文は場所を示す時、主語（人・物）の移動がない場合と、主語の移動（動作）が伴う場合の助詞の使い方である。

##### 【事例1】

1. 그는 아직 침대에 있다.  
geu-neun ajik chimde-e itta.  
(彼はまだベッドにいる。)
2. 그녀는 지금 교실에 있다.  
geunyeo-neun jigeum gyosil-e itta.  
(彼女は今教室にいる。)
3. 그림이 벽에 걸려 있다.  
geulim-i byeok-e gyeollyeo itta.  
(絵が壁に掛かっている。)
4. 아이들이 전철을 탄다.  
aideul-i jeoncheol-eu tanda.  
(子供達が電車を乗る。)<sup>(3)</sup>
5. 아이들이 학교를 간다.<sup>(4)</sup>  
aideul-i hakkyo-leul ganda.  
(子供達が学校を行く。)

【事例1】をドイツ語で表すと下記の【事例2】のようになる。

##### 【事例2】

1. Er ist noch im (Dat.) Bett.
2. Sie ist jetzt in der (Dat.) Klasse.
3. Ein Bild hängt an der (Dat.) Wand.
4. Die Kinder steigen in den (Acc.) Zug ein.
5. Die Kinder gehen in die (Acc.) Schule.

【事例2】の例文1～3までのドイツ語例文は韓国語の「-에 e」に当たる「Dative」を取り、【事例2】の例文4と5は韓国語の「-를 leul」に当たる「Accusative」を取る。

上記の【事例1】と【事例2】が示しているように、「いる、ある」のような主語の所在を表す場合には、韓国語では「-에」を用い、ドイツ語では「Dative」を取る。主語の移動や動きがある時には、韓国語では「-를」を用い、ドイツ語では「Accusative」を取る。この時の「-를」は方向を表す役割として捉えられる。つまり、このような状況における韓国

語の助詞配当とドイツ語の格配当は同じ働きの格標識をもって表すものとみられる。

## 5. ドイツ人学習者の誤用事例

前節で取り上げた【事例1】と【事例2】においては、場所を表す韓国語の助詞「-에」と「-를」に該当するドイツ語の格配当は似ているので、ドイツ人学習者が韓国語の場所を示す「-에」と「-를」を用いる時の誤用はあまり起きないと推測される。なぜなら、大半の外国語学習者は新しい言語を学習する場合、学習ストラテジーとして自分の身近な言語を通して新しい言語を理解し、受け入れようとする傾向がある。したがって、ドイツ人学習者が身近な言語である母語を通して韓国語を学習しようとするのであれば、母語の正の言語転移 (language transfer) が生じる可能性が高くなる。つまり、ドイツ人学習者が韓国語の場所を示す「-에」と「-를」の使い方をドイツ語の格配当に当てはめようとするのであれば、「-에」と「-를」の使い分けは理解され、難しいものではないと推測される。

### 5.1 作文事例

ドイツ人学習者の作文にみられる誤用事例を取り上げてみる。下記の作文1～5は文章作成の課題として学習者から提出されたものである。文章ごとにみていくため、便宜上作文を「A」、発話を「B」にして文ごとに番号をつけることにする。

本稿では下線部の「-에 e (に)」と「-를 leul (を)」のみ観察対象にするので、下記の事例の下線部以外にみられる分かち書きや語彙、文法、表現などの誤用については、あえて触れていない。

#### 作文1

A1) 나는 내일 친구와 소풍을 가니까 일찍 오늘 자요.

(私は明日友達と遠足に行くので今日は早く寝ます。)

A2) 내일 소풍은 버스를 타고 1시간정도 멀어요.

(明日の遠足はバスを乗って1時間くらいかかります。)

A3) 그래서 나는 도시락을 냉장고를 넣어요.

(だから、私はお弁当を冷蔵庫に入れます。)

A4) 그리고 나는 책과 놀기카드를 가방을 넣어요.

(そして、私は本とトランプをカバンに入れます。)

(女性、学習期間1年6か月)

#### 作文2

A5) 매일 아침 산책에 가요.<sup>(5)</sup>

(毎日朝の散歩に行きます。)

- A6) 그래서 나는 아침 빨리 일어나요.  
(だから私は朝早く起きます。)
- A7) 나는 일찍 전철에 타요.  
(私は早く 電車에 타요。)
- A8) 내 아파트는 역옆에 있어서 편리해요.  
(私のアパートは駅のそばにあるので便利です。)

(女性、学習期間 2年)

作文 3

- A9) 오늘은 너무 행복해요.  
(今日はとても幸せです。)
- A10) 친구와 내 생일파티를 했어요.  
(友達と私の誕生パーティーをしました。)
- A11) 친구가 꽃을 주었어요.  
(友達が花をくれました。)
- A12) 나는 꽃을 꽃병을 꽃고 쳐다보아요.  
(私は花を花瓶を さして眺めます。)

(女性、学習期間 2年)

作文 4

- A13) 나는 베를린에서 발표를 했어요.  
(私はベルリンで発表をしました。)
- A14) 발표는 언제든지 어려워요.  
(発表はいつも難しいです。)
- A15) 이번에 나는 내차에 타고갔어요.  
(今回私は私の車に乗って行きました。)
- A16) 다음에는 고속철도에 타고가요.  
(次回は高速鉄道に乗って行きます。)

(男性、学習期間 1年 6か月)

作文 5

- A17) 나는 오늘 방정리 했어요.  
(私は今日部屋の整理をしました。)
- A18) 처음에 내 책을 책장을 펼쳐 놓아요.  
(始めに私の本を本棚を たてます。)
- A19) 다음은 옷들을 옷장을 넣어 놓아요.  
(次は服をクローゼットを いれます。)

A20) 그리고 나는 한달 계획표를 벽을 걸어요.

(そして私は一か月の計画表を壁を掛けます。)

(男性、学習期間2年)

上記の5つの作文で現れる誤用は参加者の作文にしばしばみられるものである。作文1、3、5の下線部分を見ると、助詞「-에 e (に)」を取るべき所に「-를 leul (を)」を取っている。作文2、4の下線部分では助詞「-를」が妥当だが、「-에」を取っている。作文事例の誤用場面を見ると、助詞「-를」と「-에」を用いる場面が入れ違いになっている。事例文A1)～A20)の間で「-를」と「-에」の誤用がみられる文に用いられた動詞をみると、移動動詞か、もしくは主語の動きによって、その結果、ある場所になんらかの変化が生じることを示す動詞類である。

## 5.2 発話事例

ここでは発話の誤用事例を取り上げて観察してみる。下記の発話事例は授業時間に行われた自由な会話のやりとりである。Tは教師、DLはドイツ人学習者である。

### 発話 1

B1) T: 요즘 날씨가 아주 좋네요. D 씨, 지난 주엔 무엇을 했어요?

(この頃天気がとてもいいですね。Dさん、先週何をしましたか?)

B2) DL1: …Na…ja…나는 일 너무 많아요. 쉬는 날…없이…안 쉬고…

(…う…む…私は仕事とても多いです。休みの日…なく…休まずに…)

B3) T: 주말에도 일을 했어요?

(週末にも仕事をしましたか?)

B4) DL1: 네. Hum…나는 토요일 눈 색을 벽을 그려요…지난 주…

(はい。ふむ…私は土曜日雪色を壁を塗ります…先週…)

B5) T: 아…지난 주 토요일에 흰 색을 벽에 칠했어요?

(あ…先週土曜日に白色を壁に塗りましたか?)

B6) DL1: 아…네. 흰 색을 벽을 칠…그렸어요. J가 나의…나에…도와 같이 했어요.

(あ…はい。白色を壁を塗り…ました。Jが私の…私に…手伝って一緒にしました。)

B7) T: 아, J씨가 D 씨를 도와주었군요. J 씨는 뭘 했어요?

(あ、JさんがDさんを手伝ったのですね。Jさんは何をしましたか?)

B8) DL2: Hum…저는 Müll…아…쓰레기를 Sack …ja…자루를 넣고,

(Hum…私は Müll…ゴミを…Sack …ja…袋を入れて、)

B9) T: 자루?

(袋?)

B10) DL2: 그리고 그거를 차를 실어서…hum…2번 버렸어요. (後略)

(そしてそれを車に乗せて…hum…2回捨てました。)

(DL1: 男性、学習期間 1年6か月 / DL2: 男性、学習期間 1年5か月)

発話 2

B11) T: 모두 잘 지냈어요? 여름방학은 어땠어요?

(皆さん、お元気でしたか? 夏休みはどうでしたか?)

B12) DL1: 저는 2주 동안 프랑스에 있었어요. 문화의 프랑스 관한 숙제를 해요. <sup>(6)</sup>

(私は2週間フランスにいました。文化のフランスに関する宿題をします。)

B13) T:

프랑스 문화?

(フランスの文化?)

B14) DL1: Ach so…프랑스 문화…그래서 매일 역사와 문화Museum을 갔어요.

(Ach so…フランス文化…だから毎日歴史と文化 Museum を行きました。)

B15) T:

박물관?

(博物館?)

B16) DL1: Ach…ja…그리고 거기 저는 프랑스 문화를 내 공책을 쓰었어요.

(Ach…ja…そしてそこで私はフランス文化を私のノートを書きました。)

B17) T: 숙제는 다 했어요? (中略)

(宿題は全部終わりましたか?)

B18) DL2: 나는 이사 했어요. 아직 정리 더 해야 해요. 주말 정리해요.

(私は引っ越しました。まだ整理をもっとしないといけないです。週末に整理します。)

오늘 나는 내 벤치를 정원을 놓아요. 그리고…나는 카페트를 Wohnzimmer…를

(今日私は私のベンチを庭を置きます。そして…私はカーペットを  
Wohnzimmer…を)

B19) T:

거실?

(リビング?)

B20) DL2: 아,네. 카페트를 거실을 깔아요. (後略)

(あ、はい。カーペットをリビングを敷きます。)

(DL1: 女性、学習期間 1年8か月 / DL2: 女性、学習期間 1年8か月)

発話 3

B21) T: S 씨, 더워요?

(Sさん、暑いですか?)

B22) DL: 네, Ach, ja…더워, 그래서 내 자전거에 타요.

(はい、Ach, ja…暑い、だから私の自転車に乗ります。)



B23) T: 아, 그래요.

(あ、そうなんですね。)

B24) DL: 그래도 Wunderbar! 날씨 너무 좋아요.

(だけど Wunderbar (素晴らしい)! 天気がとてもいいです。)

B25) T: 집에서 학교까지 얼마나 걸려요?

(家から学校までどのくらいかかりますか?)

B26) DL: Hum…전철에 타면 ungefähr…20 분? (後略)

(Hum…電車に乗ると ungefähr (約) …20分?)

(DL: 男性、学習期間 1年 4か月)

#### 發話 4

B27) T: 이번 학예회 때 뭘 할까요?

(今度の学芸会の時、何をしましょうか?)

B28) DL1: K-pop!

B29) DL2: 사물놀이! 신나, 좋아요.

(サムルノリ! やった、いいです。)

B30) DL3: Theater…nein…연극! oder 코메디?

(Theater…nein…芝居! oder コメディ?)

B31) T: 그럼 가위, 바위, 보로 정할까요? 아니면 주사위?

(それではじゃんけんで決めましょうか? それともサイコロ?)

B32) DL1: 주사위요. 지난 주처럼 주사위를 책상 위를 던지어…던져…

(サイコロで。先週のようにサイコロを机の上を投げて…投げて…)

B33) T: 네. 이렇게 주사위를 책상 위에 던져서 큰 숫자가 나오는 사람이 정하기.

(はい。このようにサイコロを机の上に投げて大きい数字が出る人が決めよう。)

B34) DL2: 아니…Also…이거 (종이컵) 를 쓰레기통을 던져서 Tor (골인) 하기. (後略)

(いや…Also…これ (紙カップ) をゴミ箱を投げて Tor (ゴール) する。)

(DL1: 女性、学習期間 1年 6か月 / DL2: 男性、学習期間 1年 8か月 / DL3: 女性、学習期間 1年 5か月)

上記の發話事例の下線部分をみると、發話 1 の B4)、B6)、B8)、B10) は助詞「-에 (に)」を取るべき所に「-를 leul (を)」を取っている。發話 2 の B16)、B18)、B20) も發話 1 と同じく助詞「-에」を用いるべき所に「-를」を用いている。發話 3 の B22)、B26) は助詞「-를」を取るべき所に「-에」を取っている。發話 4 の B32)、B34) は助詞「-에」を用いるべき所に「-를」を用いている。

## 6. 誤用分析

### 6.1 「-를」の誤用について

ドイツ人学習者は母語の格システムを通して韓国語の助詞の役割を理解するので、助詞「-를」=「Accusative」、「-에」=「Dative」のように認識するものと推測される。

ここでは作文に現れた誤用事例を取り上げて、「-를」の誤用はどのような場面で生じるのか、詳しく「-를」の誤用場面を観察してみる。

- A3) 그래서 나는 도시락을 냉장고를 넣어요.  
geuleseo na-neun tosilak-eul nengjanggo-leul neoeoyo.  
(だから、私はお弁当を冷蔵庫を入れます。)
- A4) 그리고 나는 책와 놀기카드를 가방을 넣어요.  
geuligo na-neun chek-wa nolgikadeu-leul gabang-eul neoeoyo.  
(そして、私は本とトランプをカバンを入れます。)
- A12) 나는 꽃을 꽃병을 꽃고 쳐다보아요.  
na-neun kkot-eul kkotbyoung-eul kkotgo chyeoda boayo.  
(私は花を花瓶をさして眺めます。)
- A18) 처음에 내 책을 책장을 꽂아요.  
cheoeum-e ne chek-eul chekjang-eul kkojayo.  
(始めに私の本を本棚を立てます。)
- A19) 다음은 옷들을 옷장을 넣어요.  
daeum-eun otdeul-eul otjang-eul neoeoyo.  
(次は服をクロゼットを入れます。)
- A20) 그리고 나는 한달 계획표를 벽을 걸어요.  
geuligo na-neun handal gehyekpyo-leul byeok-eul geoleoyo.  
(そして私は一か月の計画表を壁を掛けます。)

上記の事例文「-를 leul (を)」の誤用場面は場所を示すところなので、韓国語では助詞「-에 e (に)」を取るべきである。しかも、4.1節で示したように場所を指す時、韓国語文とドイツ語文はほぼ同じ役割の格標識が用いられた。では、なぜ、学習者はここに「-를」を用いたのだろうか。文A3)、A4)、A12)、A18)、A19)、A20)をみると、ドイツ語の文表現に関わるものと考えられる。文A3)、A4)、A12)、A18)、A19)、A20)は文に「-를」が重複される共通点があり、このような表現はドイツ語文によく用いられるものである。上記の誤用事例で用いられた韓国語の動詞は「넣다 neotta (入れる)」、「꽃다 kkotta (挿す)」、「걸다 geolda (掛ける)」である。これらの動詞は主語の動作や移動を伴って、ある出来事(現象)の変化や新しい状態をなす(結果)ものである。誤用事例は主語の動きによってあるものが移動させられるという表現の際に現れている。前述したように、ドイツ語は主語

の移動や動作の方向を表す時に「Accusative」を取る。つまり、誤用事例はドイツ語の文表現と類似しているものにみられる。

「-를」の誤用事例をみると、学習者は出来事の変化や結果を述べるのではなく、主語の動作に焦点を当てて述べているように思われる。例えば、文A4)は、「놀이카드를 가방에 넣(었) 어요. nolikadeu-leul gabang-e neo (eot) eoyo (トランプをカバンに入れました。)」が自然な韓国語であるが、学習者は「Ich stecke meine (Acc.) Spielkarte in meine (Acc.) Tasche/나는 놀이카드를 가방을 넣어요 (私はトランプをカバンを入れます。)」のように母語の文型に韓国語を当てはめて書いたものと考えられる。したがって、「-를」の誤用はドイツ人学習者の母語の負の言語転移によるものと思われる。つまり、ドイツ語は韓国語の表現様相と異なり、主語の移動や動きによって生じた出来事や物事の変化(結果)に焦点を当ててのではなく、主語の移動(動作)を優先する表現を用いる。そのため、物事の変化が生じた所を示すより、むしろその変化のための主語の動き(行為)に焦点を当てるのである。このようにドイツ語は主語の立場で物事が描写される特徴をもつために主語中心的な言語であるといわれている。

次は、発話に現れた「-를」の誤用事例であるが、作文事例と同じパターンであるのかどうかを観察してみる。

- B4) DL1: 네. Hum…나는 토요일 눈 색을 벽을 그려요…지난 주…  
(はい。ふむ…私は土曜日雪色を壁を塗ります…先週…)
- B6) DL1: 아…네. 흰 색을 벽을 칠…그렸어요. J가 나의…나에…도와 같이 했어요.  
(あ…はい。白色を壁を塗り…ました。Jが私の…私に…手伝って一緒にしました。)
- B8) DL2: Hum…저는 Müll…아…쓰레기를 Sack …ja…자루를 넣고,  
(Hum…私は Müll…ゴミを…Sack …ja…袋を入れて、)
- B10) DL2: 그리고 그거를 차를 실어서…hum…2번 버렸어요.  
(そしてそれを車を乗せて…hum…2回捨てました。)
- B16) DL1: Ach…ja…그리고 거기 저는 프랑스 문화를 내 공책을 쓰었어요.  
(Ach…ja…そしてそこで私はフランス文化を私のノートを書きました。)
- B18) DL2: 오늘 나는 내 벤치를 정원을 놓아요. 그리고…나는 카페트를 Wohnzimmer…를  
(今日私は私のベンチを庭を置きます。そして…私はカーペットを  
Wohnzimmer…を)
- B20) DL2: 아,네. 카페트를 거실을 깔아요.  
(あ、はい。カーペットをリビングを敷きます。)
- B32) DL1: 주사위요. 지난 주처럼 주사위를 책상 위를 던지어…던져…  
(サイコロで。先週のようにサイコロを机の上を投げて…投げて…)
- B34) DL2: 아니…Also…이거 (종이컵) 를 쓰레기통을 던져서 Tor (골인) 하기.  
(いや…Also…これ(紙カップ)をゴミ箱を投げて Tor (ゴール) する。)

上記の発話事例は作文事例の学習者とは別の人物のものであるが、誤用パターンは類似している。類似しているのは、文に「-를」の重複がみられることである。外国人の韓国語学習者が他動詞文に「-를」を取るの正しい選択ではあるが、上記のように「-를」が重複されることは不自然である<sup>(7)</sup>。上記の発話の誤用事例が作文の誤用場面と同じく、学習者の母語から負の言語転移で生じたものかどうかを、ドイツ語訳を通して確かめてみる。

- B4) DL1: 네.Hum…나는 토요일 눈 색을 벽을 그려요.  
[Ja. Hum…ich male das Weiß (Acc.) an die Wand (Acc.) am Samstag an.]  
(はい。Hum…私は土曜日に白色を壁を塗ります。)
- B6) DL1: 아…네. 흰 색을 벽을 칠…그렸어요.  
[Ach ja. Ich habe das Weiß (Acc.) an die Wand (Acc.) angemalt.]  
(あ、そう、白色を壁を塗りました。)
- B8) DL2: Hum…저는 Müll…아…쓰레기를 Sack…ja…자루를 넣고,  
[Hum…ich habe den Müll (Acc.) …ja…in den Sack (Acc.) gesteckt, ]  
(Hum…私は Müll…ゴミを… Sack …ja…袋を入れて、)
- B10) DL2: 그리고 그거를 차를 실어서  
[und den (Acc.) habe ich in den Wagen (Acc.) aufgeladen.]  
(そしてそれを車を乗せて…。)
- B16) DL1: Ach…ja…그리고 거기 저는 프랑스 문화를 내 공책을 쓰었어요.  
[Ach…ja…und dort habe ich die französische Kultur (Acc.) in mein Schreibheft (Acc.) geschrieben.]  
(Ach…ja…そしてそこで私はフランス文化を私のノートを書きました。)
- B18) DL2: 오늘 나는 내 벤치를 정원을 놓아요.  
[Heute stelle ich meine Bank (Acc.) in den Garten. (Acc.)]  
(今日私は私のベンチを庭を置きます。)
- B20) DL2: 네. 카페트를 거실을 깔아요.  
[Ja. Ich lege den Teppich (Acc.) ins Wohnzimmer. (Acc.)]  
(はい。カーペットをリビングを敷きます。)
- B32) DL1: 주사위요? 지난 주처럼 주사위를 책상 위를 던지어…던져…  
[Würfel? Wie das letzte Mal werfen wir den Würfel (Acc.) auf den Tisch. (Acc.)]  
(サイコロで。先週のようにサイコロを机の上を投げて…投げて…)
- B34) DL2: 아니…Also…이거 (종이컵) 를 쓰레기통을 던져서 Tor (골인) 하기.  
[Nein…Also…Das (Acc.) werfen wir auf den Mülleimer, (Acc.) Tor zu machen.]  
(いや…Also…これ(紙カップ)をゴミ箱を投げて Tor (ゴール) する。)

上記のように、発話の誤用事例をドイツ語に直訳してみると自然な文になる。このようなことは、少なからず学習者が学習ストラテジーとして母語の文構造に韓国語を当てはめ

ていたことが分かる。上記の発話文に用いられた動詞類は主語が「あるコトのため、ある方向へ動いて、そのコトを行う」との意味を含んでいる。したがって、発話の誤用事例を通して次のように推測できる。ドイツ人学習者は「넣다 neotta (入れる)」のように、主語の動作を伴う動詞を用いる場合、「-를 (-を) -에 (-に) 넣다 (入れる)」のように物事の状況変化、あるいは「主語の動作によって ~される モノの状態 (結果)」を示す韓国語の表現ではなく、主語の立場を優先し、主語の動く (行為) 方向にフォーカスを置く「-를 (-を) -를 (-を) 넣다 (入れる)」のように、ドイツ語の文表現を用いたために誤用が生じたのである。

## 6.2 「-에」の誤用について

6.1 で言及したように大半のドイツ人学習者は韓国語を学習する場合、助詞「-에 e (に)」=「Dative」のように認識する。下記に「-에」の誤用事例をもう一度取り上げて詳しく観察してみる。まず、作文の事例からみていく。

A5) 매일 아침 산책에 가요.

meil achim sancheke-e gayo.

(毎日朝の散歩に行きます。)

A7) 나는 일찍 전철에 타요.

na-neun iljjik jeoncheol-e tayo.

(私は早く電車に乗ります。)

A15) 이번에 나는 내차에 타고갔어요.

ibeon-e na-neun ne cha-e tago gatseoyo.

(今回私は私の車に乗って行きました。)

A16) 다음에는 고속철도에 타고가요.

daeum-e-neun gosokcheoldo-e tago gayo.

(次回は高速鉄道に乗って行きます。)

上記に取り上げられた誤用事例は【事例2】が示しているように、ドイツ人学習者には起こりにくい場面であると思われる。しかし、意外なことに参加者の中で10人以上が上記の誤用事例と類似する場面に誤用をしていた。迫田(2002)によると、新しい外国語を学習する過程において学習者には様々な言語変異がみられ、その言語変異による学習者の中間言語はそれぞれの学習者の母語に影響される場合が多いとされている。しかし、上記の誤用は母語の影響とは考えにくい。その理由は4.1節で取り上げたように、主語の移動や動作を表す場合、ドイツ語は「Accusative」を取る。それと同じく、韓国語の「가다 gada (行く)」は「-를 leul (を)」を取って主語が向かう目的地への移動方向を示し、「타다 tada (乗る)」の場合においても、「-에 e (に)」ではなく、「-를」を取ってゴールより、むしろ主語の「乗る」という移動行為に焦点を置いて、その行為を具体化すると同時にその進

行方向を取り立てる。

したがって、上記の誤用事例は母語の影響や目標言語の過剰般化によるものといいいく。例えば、上記の誤用事例の場合、ドイツ語の文法に倣って助詞を当てはめるとすれば、母語からの正の言語転移になるところでドイツ人学習者にとって間違いにくい場面であるし、目標言語にしてもドイツ語の「Accusative」と同じ役割の「-를」を用いるので、この状況に生じる「-에」の誤用につながるような手がかりは見つからない。

このように「-에」の誤用を観察してみると、「-에」の誤用は母語からも目標言語からも類推できないものであり、「-를」の誤用に照らしてみても類似点が見当たらないものである。では、なぜ、同じ母語をもつ学習者が同じ所で学習をしているのに、学習者の間で全く異なるパターンの誤用が生じるのだろうか。その手がかりを求めて、学習者の外国語の学習経験や言語環境などの情報のためのアンケート調査を実施した。

アンケート回答を観察してみるとある共通点が見いだされた。母語からも目標言語からも誤用の原因が類推できない「-에」の誤用がみられた学習者の全員は韓国語を学ぶ前に日本語を学んだ経験があった。具体的にいうと、参加者30人の中5人が3年以上の日本語の学習経験があり、7人が6か月から2年以上の日本語の学習経験があった。参加者の3分の1以上が韓国語を学ぶ前に日本語学習の経験をもっていたのである。さらに、その中には韓国語と並行して日本語の学習を続けている学習者もいた。アンケートの集計結果から推測されるのは、「-에 e」の誤用をした学習者は日本語学習の経験から、韓国語は日本語と統語的に類似しているという言語情報を得て、その類似性を韓国語の学習戦略として用いたのではないか、ということである。それを裏付けるものとして、「-에」の誤用事例を日本語文にしてみると次のようになる。

- A5) 매일 아침 산책에 가요. ×  
meil achim sancheke-e gayo.  
[毎日朝の散歩に行きます。] ○
- A7) 나는 일찍 전철에 타요. ×  
na-neun iljjik jeoncheol-e tayo.  
[私は早く電車に乗ります。] ○
- A15) 이번에 나는 내차에 타고갔어요. ×  
ibeon-e na-neun ne cha-e tago gatseoyo.  
[今回私は私の車に乗って行きました。] ○
- A16) 다음에는 고속철도에 타고가요. ×  
daeum-e-neun gosokcheoldo-e tago gayo.  
[次回は高速鉄道に乗って行きます。] ○

上記のように、韓国語文としては非文になる誤用事例を日本語に訳すと自然な日本語文になる。今回の調査では日本語学習の経験者すべてに「-에 e (に)」の誤用がみられ、韓

国語学習への影響が示唆された。このような誤用の背景には、韓国語の助詞「-에」が日本語の助詞「-に」と常と同じ場面で働くものと学習者が認識していた可能性がある。

次は発話3のB22)、B26)を取り上げてみよう。

B22) DL: 네, Ach, ja…더워, 그래서 내 자전거에 타요.

(はい、Ach, ja…暑い、だから私の自転車に乗ります。)

B26) DL: Hum…전철에 타면 ungefähr…20 분? (後略)

(Hum…電車に乗ると ungefähr (約) …20分?)

B22) と B26) は既に言及したようにドイツ人学習者に起こりにくいような誤用である。「-를 leul (を)」が来るべき所に「-에」を取っている。このような誤用は作文の誤用事例から確認されたように、日本語の学習経験に影響されて生じたものと考えられる。

以上のようにドイツ人学習者の「-에 e」と「-를 leul」の誤用を観察してみた結果、今回の調査対象者に限っていえることは、ドイツ人学習者による「-를」の誤用は母語の負の言語転移が生じ、「-에」の誤用については外国語学習からの負の言語転移が生じていた。つまり、これらの誤用は異言語間影響 (cross-linguistic influence) <sup>(8)</sup> によって生じたと思われる。外国語を学習する場合、母語と目標言語との言語的な距離が大きいと、母語の影響が少ないといわれているものの、学習者は母語や以前に学習した外国語から得た言語知識を新しい外国語の学習のために取り入れたり、当てはめたりする方法を学習ストラテジーとして用いるのである。このように母語からの転移も学習者の重要なストラテジー <sup>(9)</sup> の1つである (Corder, 1983)。

次の【表1】は対象者のドイツ人学習者30人における韓国語の学習以前の外国語の学習経験を表すものである。

【表1】韓国語学習以前の外国語学習経験

言語\学習順	第1外国語	第2外国語	第3外国語
英語	25名	5名	—
ラテン語	5名	10名	—
フランス語	—	7名	2名
イタリア語	—	3名	2名
スペイン語	—	5名	2名
ギリシャ語	—	—	3名
ロシア語	—	—	2名
アラビア語	—	—	3名
中国語	—	—	4名
日本語	—	—	12名

出所：2013年8月から2014年6月までのハンブルク韓国語学校のドイツ人学習者30人より筆者作成

【表1】に示されているように、ドイツ人学習者は韓国語を学習する前に多様な外国語学習の経験をもっていた。今回の分析対象の「-에 e (に)」の誤用については日本語の学習経験者のみにみられたものである。

## 7. おわりに

本稿ではドイツ人学習者を対象に場所を示す時に用いる助詞「-를 leul (を)」と「-에 e (に)」の誤用について、作文と発話の事例を通して分析を行った。

分析の結果、「-를」の誤用は学習者が韓国語と異なる母語の文構造に影響され、母語の負の言語転移が生じたものと考えられる。ドイツ語の場合、主語の動作によって何かが生じる時、その何かが生じる所に焦点を置くのではなく、そのために何かを行っている主語の行為が優先され、その主語の動きの様子が「Accusative (対格、4格)」によって取り立てられる主語中心的な表現を好む傾向がある。そのため、ドイツ人学習者は韓国語文として「-에」を用いるべき所にドイツ語の文表現に倣って「-를」を用いたものと思われる。

「-에」の誤用については以前に学習した外国語に影響されたと考えられ、学習者が日本語の文法に韓国語を当てはめていたために起こったものとみなされる。これは外国語からの負の言語転移で生じた誤用といえる。

外国語を学んでいると多様な言語情報や環境に影響されて思わぬところで誤用が生じる。一般的に外国語学習者は目標言語の学習のために母語や他の外国語の言語知識を学習ストラテジーとして取り入れることが多い。外国語学習者が用いるそれぞれの学習ストラテジーは目標言語の学習にポジティブな効果がある場合もあれば、ネガティブな効果がある場合もある。

つまり、外国語を学習する場合、学習者は様々な場面において誤用を経験しながら目標言語を習得していくのである。コーダー (Corder: 1967, 1971, 1981) が主張しているように、誤用は外国語の学習過程の段階に応じて自然に生じるものである。言い換えると、学習者の誤用は否定的に受け止めるものではなく、むしろ効果的な教授法のための重要な情報を提供する。なぜならば、誤用を通して学習者がどのような学習ストラテジーを取り入れたのか、それを把握する手がかりを見つけることができるからである。したがって、学習現場では学習者の誤用を無理に抑制するより、誤用の原因を見いだし、その誤用が化石化する前に修正できるような工夫が求められる。

### 注

- (1) 韓国語の助詞「-을 eul / -를 leul (を)」は終声によって使い分けられるが、例文以外の所における見だし語は「-를 leul」とする。
- (2) できるだけ学習者の学習環境に差が出ないように、対象学習者はハンブルク韓国語学校で韓国語を習い始めた者に限定した。学習者の個人情報を公開しない条件で資料収集したので、誤用事例に学習者の詳細な情報は記入していない。



- (3) 韓国語の事例文の和訳は逐語訳を用いるため、日本語として不自然な所がある。誤用事例の形を優先するが、日本語として非文になる助詞についてはイタリックで示す。
- (4) 【事例 1】の 5 の「가다 gada (行く)」の場合、一般的に方向を表す時は「-를 leul (を)」を、ゴールを表す時は「-에 e (に)」を用いる。同じく、ドイツ語においても「gehen (行く)」の場合、「Accusative」のみではなく、「Dative」を用いることができる。
- (5) 油谷幸利 (2005) によると、韓国語は「動作をしに行く」場合、「-를 (を) 가다 (行く)」を用いる。つまり、A5) の場合の「가다」は、「散歩しに」どこかに行くということなので、ゴールを表す「-에 e (に)」は不自然である。
- (6) B12) ように語順や時制の誤用もみられるが、いずれも今回の分析対象には含めない。
- (7) 한정환 (Han Jeonghwan: 1999, 2001)、홍재성 (Hong Jesung, 1987) で論じられているように、助詞「-를」は語用的な意味役割をする場合もあり、時折 1つの文に「-를」が重複されることもある。しかし、そのような語用的な意味役割をもつ「-를」は、本稿で取り上げる場所に関わる「-를」と異なるものなので、ここでは語用的な役割の「-를」は対象外にする。
- (8) この用語は Kellerman and Sharwood-Smith (1986) によるものである。
- (9) 学習ストラテジーについて詳しくは竹内 (2003)、辰野 (1997) など参照。

#### 参考文献

- 迫田久美子 (2002) 『第二言語習得研究』東京：アルク出版。
- 竹内理 (2003) 『より良い外国語学習法を求めて』東京：松柏社。
- 辰野千寿 (1997) 『学習方略の心理学—賢い学習者の育て方』東京：図書文化。
- 油谷幸利 (2005) 『日韓対照言語学入門』東京：白帝社。
- 남기심 (1993) 『국어 조사의 용법 ‘-에’ 와 ‘-로’ 를 중심으로』서울: 서광학술자료사.
- 남기심 · 고영근 (1985) 『표준 국어문법론』塔出版社。
- 성상환 (2006) 「독일어권 한국어 문법 교육의 모습」『국어교육연구』16, pp.389-417. 국어교육학회.
- 이정희 (2002) 「한국어 학습자의 표현 오류연구」경희대학교 박사 학위 논문.
- 이해옥 (2014) 「독일 한국어 학습자의 구어텍스트 산출 전략에 관한 연구」『외국어로서의 독일어』34, pp. 99-119. 한국 독일어 교육학회.
- 조철현 他 (2002) 『한국어 학습자의 오류 유형 조사 연구』서울: 문화관광부.
- 한정환 (1999) 「의미격과 화용격은 어떻게 다른가?」『국어의 격과 조사』서울: 월인.
- \_\_\_\_\_ (2001) 「중간언어기계번역시스템을 위한 ‘-를’ 의 처리」『한국어의 목적어』서울:월인.
- 홍재성 (1987) 『현대 한국어 동사구문의 연구』서울: 탑출판사.
- Corder, P. (1967) Significance of learner's errors, *International Review of Applied Linguistics* 5: pp.161-169.
- \_\_\_\_\_ (1971) Idiosyncratic dialects and error analysis, *International Review of Applied Linguistics* 9: pp. 147-159.
- \_\_\_\_\_ (1981) *Error analysis and interlanguage*, Oxford: Press.
- \_\_\_\_\_ (1983) A role for the mother tongue. In Gass, S. and Selinker, L. (eds.) *Language Transfer in Language*. Rowley: Mass. Newbury House.
- Kellerman, E. and Sharwood-Smith, M. (eds.) (1986) *Cross-linguistic Influence in Second Language Acquisition*. Oxford: Pergamon.

